

健診検査センターニュース

No.502 号

検査受託中止のお知らせ

平素より当センターをご利用頂きまして、誠にありがとうございます。
この度、下記の検査項目の受託を中止させていただくことになりましたので、お知らせいたします。何卒、ご了承賜りますようお願い申し上げます。

受託中止日： 平成 25 年 12 月 28 日（土）より受託中止

中止項目： 7121 ヒトパピローマウイルス（HPV）DNA 型判定
（ハイリスク 13 種）

備考	新規項目受託開始に伴う受託中止
代替項目	7128 ヒトパピローマウイルス（HPV）ジェノタイプ判定

新規実施項目のお知らせ

平素より当センターをご利用頂きまして、誠にありがとうございます。
さてこの度、下記の検査項目を外部委託項目として新規受託することとなりましたので、お知らせいたします。何卒、ご利用賜りますようお願い申し上げます。

開始日： 平成 26 年 1 月 6 日（月）より開始

開始項目： 7128 ヒトパピローマウイルス（HPV）ジェノタイプ判定

依頼方法	総合検査依頼書の備考欄に「ヒトパピローマウイルス（HPV）ジェノタイプ判定」とご記入ください。
検査方法	PCR-rSSO 法
採取容器 （採取量）	f6 子宮頸部
保存方法	室温
基準値	陰性
所要日数	5 ～ 7 日
実施料	2000 点
判断料	150 点（微生物学的検査判断料）
備考	検出可能な型は 16、18、31、33、35、39、45、51、52、56、58、59、68 型です。 本検査はあらかじめ組織診断により CIN1 または CIN2 と診断された患者から採取された検体を専用容器 f6 でご提出ください。 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取扱いに十分ご注意ください。他項目との重複依頼は避けてください。

●ヒトパピローマウイルス（HPV）ジェノタイプ判定

PCR-rSSO 法による本項目を新規受託開始いたします。新法は、現行法と検出可能なジェノタイプの種類は変わらず、所要日数が短縮されます。また、保存安定性の高い（室温で28日間）専用容器 f6 を設定させていただきましたのでご案内申し上げます。

▼対象疾患

●子宮頸がん

▼関連項目

●細胞診（婦人科）[ベセスダシステム]

●ヒトパピローマウイルス DNA（16 型、18 型、その他ハイリスクグループ）

▼検体採取方法

容器形態	検体取り扱い方法
<p>(容器記号) f6</p>  <p>内容 メタノール 55%</p> <p>貯蔵方法 室温</p> <p>有効期間 1年6ヶ月</p>	<div style="display: flex; flex-direction: column;"> <div style="margin-bottom: 10px;">  <p>①子宮頸部の細胞を採取する 綿棒以外の採取器具(ブラシ、スパーテル)を用いて細胞を採取してください。</p> </div> <div style="margin-bottom: 10px;">  <p>②細胞を洗い落とす 採取器具を容器に入れ、容器の底で採取器具の先端が広がるように10回程度押し付けた後、強くかき回して採取した細胞を洗い落としてください。</p> </div> <div>  <p>③しっかりフタを閉める 採取器具を取り出し、蓋の黒いラインが容器本体の黒いラインを左に超えるように、しっかり蓋を閉め、室温保存してください。 (注)採取器具の先端は容器に残さないでください。</p> </div> </div> <p>【ご注意】 妊婦より細胞を採取する場合は、安全性を考慮し、ブラシ、スパーテル等の採取器具の使用は避け、綿棒を使用してください。ただし、綿棒で検査に必要な細胞量を採取するために、採取前に別の綿棒で粘液を除去し、採取に使用した綿棒を保存液中で十分にすすぎ、採取した細胞を洗い落としてください。容器には綿棒の先端を残さないで室温保存してください。また、綿棒では無理な力がかかると折れる可能性がありますので十分にご注意ください。</p>

**開始項目： 7135 ヒトパピローマウイルス DNA (16型、18型
その他ハイリスクグループ)**

依頼方法	総合検査依頼書の備考欄に「ヒトパピローマウイルス DNA (16型、18型、その他ハイリスクグループ)」とご記入ください。
検査方法	PCR (リアルタイムPCR)
採取容器 (採取量)	f4 子宮頸部 3.0
保存方法	室温
基準値	16型 陰性 18型 陰性 その他ハイリスクグループ 陰性
所要日数	4～7日
実施料	360点
判断料	150点 (微生物学的検査判断料)
備考	測定対象は16型、18型、その他ハイリスクグループ (31、33、35、39、45、51、52、56、58、59、68型および66型)です。「その他ハイリスクグループ」については、型別の判定ではありません。 必ず専用容器で採取してご提出ください。 他項目との重複依頼は避けてください。 検体に血液が混入していると、データに影響を及ぼす場合がありますので、ご注意ください。

●ヒトパピローマウイルス DNA (16型、18型、その他ハイリスクグループ)

12種類のハイリスクグループの検出とともに、特にリスクが高い16型、18型を個別に検出します。

子宮頸がんは、ヒトパピローマウイルス(HPV)ハイリスク型を、持続感染することにより発症します。早期発見と進展リスクに応じた診療のために、HPVハイリスク型の感染有無の情報が重要となってきます。

このたび、従来のハイリスクグループ(31、33、35、39、45、51、52、56、58、59、68型)に66型を加え、さらに、特にリスクが高いため、HPVワクチンの予防対象となっているHPV16型と18型を個別に検出する本検査を受託開始いたします。

▼対象疾患

●子宮頸がん

▼関連項目

●細胞診(婦人科) [ベセスダシステム]

●ヒトパピローマウイルス(HPV) ジェノタイプ判定

容器形態	検査項目
<p>(容器記号) f 4</p>  <p>内容 メタノール 35%含有</p> <p>貯蔵方法 室温</p> <p>有効期間 1年</p>	<p>ヒトパピローマウイルス DNA (16型、18型、その他ハイリスクグループ)</p> <p>検体取り扱い方法</p> <p>1</p>  <p>子宮頸部の細胞を採取する 綿棒以外の採取器具(ブラシ、スパーテル)を用いて細胞を採取してください。</p> <p>2</p>  <p>細胞を洗い落とす 採取器具を容器に入れ、容器の底で採取器具の先端が広がるように 10 回程度押し付けた後、強くかき回して採取した細胞を洗い落としてください。</p> <p>3</p>  <p>しっかりフタを閉める 採取器具を取り出し、しっかり蓋をして検体を冷蔵保存してください。 (注) 採取器具の先端は容器に残さないでください。</p> <p>【ご注意】 妊婦より細胞を採取する場合は、安全性を考慮し、ブラシ等の採取器具の使用は避け、綿棒を使用してください。ただし、綿棒で検査に必要な細胞量を採取するために、採取前に別の綿棒で粘液を除去し、採取に使用した綿棒を保存液中で十分にすすぎ、採取した細胞を洗い落としてください。容器には綿棒の先端を残さないで冷蔵保存してください。また、綿棒では無理な力がかかりますと折れる可能性がありますので十分にご注意ください。</p>

公益社団法人函館市医師会 函館市医師会健診検査センター
TEL 0138-57-6571 ・ FAX 0138-57-6580
E-mail : info@hma-labo.jp